

東海支部愛知地域会 2023年度 第10回役員会議事録

日 時 : 2024年3月29日(金) 16:00~18:00
 場 所 : 昭和ビル5階 会議室 (名古屋市中区栄四丁目3番26号)
 ※WEB会議を併用
 出 席 : 森哲哉 地域会長 近藤万記子 関口啓介 高木耕一 野々川光昭 各副地域会長
 (順不同・敬称略) 生津康広 澤村喜久夫 本部理事
 下線オンライン出席 間瀬高歩 笹野直之 恒川和久 石川英樹 各委員長・副委員長
 鈴木利明 水野豊秋 両監査
 委任状出席: 西村和哉 川本直義 上原徹也 奥井康史 杉本憲治 柳澤力 吉元学
 オブザーバー: 尾関利勝 顧問
 伊奈浩一 JIA・愛知賛助会
 欠 席 : 宮坂英司 東福大輔 中澤賢一
 議 長 : 高木耕一
 議事録作成担当委員会: 住宅研究会
 議事録署名人: 黒野有一郎 間瀬高歩
 前回議事録確認: 2023年度第9回議事録

議 事

1. 地域会長挨拶(森)

通常より早い時間、また年度末の忙しい時期にありがとうございます。寒さが長引き桜の開花が遅れているかと思えば、急に暖かくなって服装が難しかったり体調を崩したといった話をよく聞くので皆さんお気を付けください。本日も時間内に終わるようにご協力よろしくお願いします。

2. 報告事項

(1) 本部報告

① 第313回理事会(3/12)(澤村)

資料-1

3月12日本部にて対面で開催。

〈退会承認の件〉静岡法人協力会員総合資格 承認3213名

〈会員資格喪失承認の件〉東海支部該当者無し 2年間の会費滞納は資格喪失となる

〈会員承認の件〉東海支部該当者無し

〈名誉会員選考委員会委員就任の件〉東海支部小田氏就任

〈特別委員会期限延長承認の件〉3月31日までの設置期限だが1年延長してミッションを進めたこと。総務委員会は承認したが、理事会では否決されたため、一旦終了することとなった。

〈能登半島沖地震被災者会費免除の件〉2名の該当者について承認

〈支部地域会における業務委託事前手続きに関するガイドライン〉昨年度の奈良地域会の会計不明瞭による退会勧告があったのを受け、支部地域会において業務受託する際のルールを決めるもの。1000万円を超えるものは会長名による契約、1000万円に満たないものは各地域会で会長より委任を受けた上で契約することとなった。今回東海支部では西尾市の業務を受託しコンペ支援を行なっている。会長より委任を受け支部長名にて契約をしている。愛知地域会で受ける場合は支部の承認が必要である。支部役員会において承認を受けた上で契約を行うこととなる。

〈2024年度事業計画及び予算について〉資料8では業務方針、重点施策について書かれている。予算案について事前配信されている。本部理事会資料で確認していただきたい。

〈2025年度JIA建築家大会開催承認の件〉関東甲信越支部、千葉県が担当で承認。

報告事項

〈教育委員会〉リフレッシュセミナー(2月25-27日)開催。東海支部からは愛知の上原さん、田中さん、静岡の石橋さんが参加。教育委員会からは吉本さんも参加。有意義なセミナーだった。

〈広報委員会〉インスタグラムなど東海支部でもこういった発信ができるといった報告があったが、広報委員会ではそういった話がないとのこと。確認が必要。

〈文化財修復塾〉2024年度以降、新たなやり方を決めている。スケジュール、事業計画、予算を決めて行うという報告。

〈活動及び業務執行状況の報告〉

〈東北支部より能登半島地震について〉瓦屋根の重さが主たる被害の原因との報道が目立ったことに関し、違和感がある。瓦の街並みが失われないよう、北陸支部(石川地域会)において実態調査が行われた。実際に倒壊しているのは旧耐震の建物であり、耐震補強や新耐震の建物

については被害が軽微であり、瓦屋根だけが原因ではないという調査報告を県に提出したとの報告があった。

- ② 総務委員会（3/5）（澤村） 資料－2
2月7日の議事録添付、3月5日の報告をする。ほぼ本部理事会の内容と同様。本部総務委員会メンバーで2年の任期を2期（計4年）やった方が3名。各支部で調整して本部へあげてもらおう。
- ③ 財務委員会（3/14）（水野） 資料－3
事業活動助成を採択している。フィールドトリップにおいても10万円から4万円という採択をして開催された模様。報告書の提出のないものがいくつかあるが、提出がないと助成が受けられないため気をつけていただきたい。
地域会及び支部の財務報告について、本部のフォーマットに則っていない報告書が出ていることがあり、訂正していただきたいが、現在は本部で修正をしている。愛知は問題がないと思うが、一度ご確認いただきたい。
- ④ 住宅等連携会議議事録（3/13）（西村さんより伝言） 資料－4
特にアンダーライン箇所をご確認いただきたい。
- ⑤ 広報委員会（3/5）（野々川） 資料－5
リーフレットを各支部300部配布予定。
インスタグラムについて385万円予算計上。
HP保守等について310万円予算計上。
エキスパートインデックスは具体的に稼働していない模様だが、基本的には会員のためのサイトとして一部を一般の方に情報提供をする方向。
北陸支部の能登半島地震の特設サイトが本部ポータルサイトに連携されている。
- ⑥ CPD評議会（3/1）（野々川） 資料－6
関東甲信越支部で1月の資格制度プログラムを急遽能登半島地震に変更した。委員長判断で了承したとの事後報告。プログラム認定の内容変更については、後から再審査が好ましい等意見があるがまだ結論に至っていない。
罹災証明支援活動のCPD認定について、北陸支部が県の要請で行うが活動2週間前までとしているCPD申請期限に間に合わないという問題があった。応急危険度判定はCPDの内容確認することなく7単位の付与を認めており、罹災証明と異なることについて今後検討する。
→応急危険度判定と罹災証明は手続きが異なり、認定資格が別のものとなる

（2）支部報告

- ① 支部役員会報告（野々川） 資料－7
〈静岡地域会〉3月7日第2回JIA塾「能登半島地震の地震直後の実情報告、地域の文化財の状況」というテーマで行われ、200名を超える参加があった。5月16日に総会、記念講演は渡辺菊眞氏。テーマは「太陽建築から地域地球型建築へ」。
〈岐阜地域会〉3月8日JIAの窓で金沢へ研修旅行。法人協力会も参加した。コミュニケーションをとりながらの旅行は愛知地域会でも取り入れたい。
〈三重地域会〉3月8日会員研修会で森羅万象匠塾が行われた。
〈その他〉正会員からシニアへ岐阜の岡田典久氏。休会から復会ジュニア会員三重の豊田直樹氏。岐阜の藤井孝一氏が逝去。静岡の鈴木武氏、三重の村林桂氏、法人協力会静岡リクシルが退会総会基調講演は大阪市立大学の倉方俊輔氏に決定。
〈本部委員会構成について本部からの依頼事項〉
本部委員長、全国会議長に2024年度委員会構成の提出を依頼。別途各委員長、議長から現職委員に連絡があると思うが、各支部で入選されている場合は現職委員と連携して2024年度委員構成の円滑な提出に協力してください。
〈監査意見〉全国大会、西尾市のコンペ、支部地域会の事業が活発に行われ有意義であった。一方で西尾市コンペにつてスケジュール管理がなされていないとの指摘があった。
- ② 会報委員会（恒川）
3月18日開催。5,6,7月号のアーキテクト誌の台割について議論した。6,7月号は新旧の支部長インタビュー、新地域会委員長の挨拶等になる。編集長自体変更となり、最後となる6月号では2年間特集してきたコンペの中でも西尾市で行われたシンポジウム報告の詳細を掲載予定。また、蒲郡において行われた学生コンペ西浦駅待合所がオープン。4月コンペから3月に完成するという異例のスピードで進み、式典に参加した。おさまりや費用面等、学生の案の通りにはいかないということはあるが、蒲郡市が学生のアイデアを尊重したことをやってくれており、良い空間、場所ができた。こういったことも記事にしたい。
6月号では旧地域会長の振り返り、7月号から新編集長による新地域会長挨拶や各地域会のレポートとなる予定。次回は4月17日開催予定。
- ③ 令和5年度中部公共建築設計懇談会（森） 資料－8
2月29日開催。中部地方整備局が中心となり行政側から岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、浜松市、名古屋市、構成員として建築士会、事務所協会、JIA（大滝支部長、出口さん、森さん）が参加。
中部地方整備局からの情報提供として働き方改革、業務報酬基準改正、BIMの活用等の説明。構成員からの懇談報告として仮設住宅の住環境と開設するまでのプロセスについて。事務所協会より公共建築の設計監理におけるBIMの導入について
JIAより次世代を担う設計者や地元の設計事務所が参加できる小規模設計競技の実施について

懇談会の設置要領 H3 年度に設計料の選定方式のみではなく設計者の創造性、技術力、経験等を適正に審査して設定すべきとの建築審議会の答申があり、従来のプロポーザル方式の業者選定を基本としつつ公共建築の設計業務の多様性を考慮した設計者選定について検討する必要がある。良い公共建築とは何か。公共建築の設計監理に携わる発注者と設計者が公正かつ平等な立場で意見交換しより良い公共建築を作ることを目指すもの。具体的に推進するため必要に応じて作業部会を設置することができると書かれているが、設置まで至らなかった経緯もある。プロポーザルの問題点として、実績のハードルが上がり参加が難しく閉鎖的になっている。対照的に広島の子生チャレンジコンペは公共建築の実践を通してクリエイティブな人材育成を行っている自治体もある。人材の持続性にも関わるため、ハードルを上げるばかりではなくこういったことも必要ではないかと提案した。JIA としてはコンペ支援、スイスやドイツの事例を話した。

- ④ 第 39 回東海支部設計競技 事業報告について (間瀬) 資料-9
決算報告を行い承認された。収支はマイナス 7 万円。次年度も同様の予算で取り組む予定。
支部役員会では今後の検討課題として賞金の検討をしていただきたいとの意見があった。(関口)
- ⑤ ゴールデンキューブ賞 事業報告について (柳澤) 資料-10
学校部門で優秀賞を獲得した「藁小屋造りを中心とした体験型学習 ～「円庭」づくりの一環として～」が UIA の最優秀賞を受賞。日建設計などが代替的に受賞を発表しており、この賞がきちんと評価されていることを嬉しく思う。
収支報告 収支差額 1,213 円を支部へ返納

- ⑥ 「西尾市生涯学習センター(仮称)設計候補者選定及び基本設計支援業務」事業報告 (澤村) 資料-11
昨年 4 月 24 日支部役員会において西尾市生涯学習センターの支援業務についてのワーキンググループ委員の承認を得て 8 名で支援活動を行なった。
整備推進委員というのは設計者が決まった後、基本設計を今年度 JIA がコンペに続き基本設計のレビューを行うということで支援する。子どもの遊び場あり遊具の安全性を検証していただきたいとのことで遊具設計のできる方にも入っている。構造、設備、総合意匠も含め最終の形での基本設計のレビューはスケジュールの都合上やそこまでの成果が上がっていないこともあり今年度は行われていない。スケジュール管理も JIA の支援の範囲ではないかとの指摘があったが、市の担当者からもどのように進めたら良いかわからないためアドバイスがあればよかった、成果が足りないとのことであった。ただ、設計者には引き続きまとめていただき JIA には見ていただきたいとのこと。

市民ワークショップにおいて基本設計の成果を報告されたが 30 回ほど業務に関わった。
決算報告 市からの委託費、人件費、外部委託費(設計業務記録紙作成、ポスター作成費、審査会撮影)、諸経費(交通費、会議費)。以上 30 万円余りを支部の経費として残る。支部役員会の時は支部会計がショートしないよう、会計上は未払いとし来年度とするとしていたが、本部から全国大会の費用 300 万円の振り込みがあったとのことで本日振り込んでいただいた。会計処理についても来年度に送るとまたややこしくなるため年度内に処理ができると帳面上分かりやすいため無理を言うてお願いした。支部の承認は得たが数字が少し動いたため次回報告する。

4 月に入ってからも基本設計のレビューをやるとのことだが、費用は誰が払うのか。
→R6 年度も実施設計のレビューを JIA が委託を受ける予定で昨秋予算がついている。減額になっているため市の方で予算繰越ができるかの課題はあるが基本設計レビューはやらせていただくという話になっている。

- ⑦ 建通新聞社 記念特集号への広告掲載について (関口) 資料-12
次年度の支払いになるが広告締め切りが 4 月 5 日ということで支部役員会において来ていただいた。次期支部長にも了承を得ている。建通新聞発刊 2 万号への挨拶(広告)。全国大会においても報道等でご協力いただいております、お礼も含めてというところ。

- ⑧ 「JIA 建築家大会 2023 東海 in 常滑」決算修正について (笹野) 資料-13
前回からの変更とポイントを説明。本部からの助成金 350 万円予定→300 万円となり、既に振り込まれている。
愛知地域会から 30 万円→ゼロ。支部の財政状況でいうとさきほどの報告の通り本部より 300 万円の入金があったため西尾市の事業費の支払いができ、現預金としては 262 万円余り。未収金として来年 5 月に西尾市より 561 万円余り入金予定。合わせると 823 万円余りが次年度繰越金となる。昨年度も西尾市の未収金があり昨年度繰越金は 902 万円余り。よって今年度はマイナス 78 万円余りとなる。愛知に比べると支部の方がマイナスの割合 先の 30 万円分を含めても当初から出す予定だった 100 万円は支部が負担して相当ではないか、と支部長と話をしている。愛知が厳しい状態であえてそこにまた 30 万円をとというのは相当ではないのでは。
名誉会員の集いは本部からの収入があるため記載した。
アーキテクト 11 月号に記載漏れがあった。
宿泊費に記載漏れ

(3) 委員会、地区会、研究会報告

時間の都合上、共有すべきことがある委員会のみ報告となった。

- ⑨ 広報委員会（奥井）
現在の愛知のHPトップページ右上会員専用ページログイン必要 解除見積もり発注済カレンダーと報告のボタンに変更し、ログインしなくてもカレンダーの閲覧が可能となる支部と愛知の予定、他の地域会のイベントも入れる構想。
- ⑩ 職能・資格制度委員会（杉本）
3/15 ドイツ伊藤氏のセミナーを開催。パネリスト 12 名、JIA 会員含む一般参加者 28 名 計 40 名参加。ドイツの公共建築設計者選定についての話。スイスの林氏も参加し意見交換ができた。
- ⑪ 建築家+特別委員会（森）
- ⑫ 住宅研究会も同行し東京と埼玉にある小規模住宅の空間を体験した。ヒヤシンスハウス、最小限住宅、カップマルタンのレプリカ
- ⑬ 住宅研究会（石川）
4月に研修旅行（広島）を予定

(4) その他報告

- ① 事務局の留守番体制について（間瀬） 資料-14
瀬川さん長期不在時の正会員による交代留守番制。留守番期間の窓口、電話、ファックス、メール対応等について総務委員会が資料を準備した。
- ② 名簿の発刊について（森）
第2回役員会において、大会準備中に大会協賛広告と名簿広告依頼が重なったため名簿発行時期をずらすということで承認されている。協賛企業より3月決算のため4月に協賛をしたいとの申し出があったことを鑑み、今期名簿広告収入は無しとし、広告収入は来期のものとする。出版支出も来期に回すこととなった。発行のタイミングとしては総会後の新体制となってからとなるので分かりやすく、広告収入も自然な流れとなる。顧問や監査と協議した結果である。今期は250万ほどのマイナスとなる。

3. 審議事項

- ① 退会届 正会員「小田英一」「沢木 寛」（笹野） 資料-15（共有）
 - ・自己都合
 - ・健康上の理由
- ② 退会届 シニア会員「高橋敏郎」（笹野） 資料-16（共有）
 - ・高齢のため
- ③ 退会届 法人協力会員「(株)柏彌紙店」（笹野） 資料-17（共有）
 - ・会社都合 長年尽力いただいたので残念。
- ④ 2024年度事業計画（案）※予算を除く（野々川） 資料-18
資料-20より 前回役員会後のメール協議にて、11名からの回答をまとめたもの。
上段の事業計画案については皆さん賛成だった。事業計画は黒字。
鈴木氏に顧問を依頼したため記載した。
- ⑤ 委員会再編成について（野々川） 資料-19
資料-20より 基本的には皆さん賛成。
意見・・・(役員A) 委員会所属にとらわれることなく横断的に参加できることが望ましい。そのためにはカレンダーの公開、活用、誰もがzoom案内を入手できると良い。
→誰でも情報が見られるのは非常に大切。これまでHP内カレンダーは会員専用でID、PWが必要で面倒でしたが、トップページに移動して誰もが閲覧可能としましたので活用してください。会員に対し、日程やzoom案内をばらばらに送るのではなく、一括して月に数回送るようになることで他の委員会にも参加できるようになるのではないかと思う。
(役員B) 自発的に研修会を行うきっかけとして各委員会に2年に1回は研修をしていただくなどの目安が必要。
→基本的には1年に1回以上の研修をお願いしたい。
(役員C) 東海支部の各地域会と本部での役割についての情報共有をお願いしたい。
→支部役員会において情報共有をしていく。各地域会のイベント等の情報が支部HPに

一覧になっていけば各地域会の HP を見なくても情報が見られるので取り入れていきたいと考えている。

(役員 D) 従来の議決権のない副委員長の選任ができないこと。今後の役員候補を育てる仕組みがなくなる気がする。各委員会で考えれば良いことかもしれない。対応策としては委員会幹事などを設定することでしょうか。

→基本的に各委員会に副委員長は人数制限なく2～3名、その中から議決権を持つ方を1名選出していただくという考え方に変更となる。

(役員 E) 現在、本部 JIA 災害対策支援ネットワークに事業委員会からの委員派遣となっている。2021年より黒野さん、上原さん、森地域会長の3名。次回更新時期は不明。再編成の内容からすると建築相談委員会からの委員派遣が適切かと思われる。

→災害対策支援ネットワークについては建築相談委員長の柳澤さん、野々川さん、もう1名は地理的に三河の方が望ましいということで黒野さんに継続をお願いした。任期は2年。

(役員 F) 広報委員会としての活動ができておらず申し訳ない。ブリテン委員会との統合は賛成。地域会活動の幅を広くすることは必要だが、限られた方に集中しているという現状からするとワーキングを別枠とせず、どこかの委員会活動に取り込むのはどうか。

→限られた方に集中しているということなので、できる限りワーキングと委員会を協働して様々な立場、委員会の方が横断することで協力して負担を軽減していればと考える。HP リニューアルについてもワーキングを設け広報委員会との協働を進めていきたい。

(役員 G) 委員会をまとめて数を減らし、委員会活動を活発化するには出席率を上げるしかない。制度は性善説的に設計されているが例えば活動への参加により CPD や会費が安くなるなどのリワードが必要ではないか。

→基本的に CPD は研修やワークショップに付く。委員会活動は個人では難しいが、職能集団だからこそできる活動という意義がある。個人の職能の向上、研鑽だと思う。本来は若い方に参加していただくとメリットも大きいと思うが日常の業務に追われ参加に繋がっていない。最近の建築家の職務領域の広がりに対応するような魅力や新鮮さを取り入れ活動し、少しでも若手の方々が参加できるようにしていきたいと考える。

(役員 H) 枠組みは賛成だが、「室」がなんだったのか、機能していなかったから廃止するのであればその問題点を整理した上で改編しなくてはいけない。また、少子化に伴い会員数を叫んでも現実的かどうかを予測した上で作業量の縮小も必要ではないか。表面上は委員会数が減っても活動は増えているように見受けられる。何かを見直す時期にきているのではないか。

→これまで室長は二つの関連する委員会を把握、補佐するというような立場で委員長の経験者が務めていた。副委員長→委員長→室長、副地域会長→地域会長といった組織の人材を作るといったことも担っていた。人材減少もあり、室長をなくし正副地域会長が室長の任務を引き継ぐ考えとしている。活動内容については重点事項を共有できればと考えている。

(役員 J) 委員会の統合再編し持続可能な運営をしていくことには賛成。来期の正副委員長の選任の見通しは確実にしておく必要がある。

→各委員会に参加していない正会員に対し、参加を促進する方策について、コロナ禍において zoom 参加の試みを行ったが参加者は少数で参加促進には至っていない。リアル参加の機会を増やしていければ。例えば2ヶ月に1回は集まるとか、昨年度は全国大会があったため行われていないが、年に1回は会議室での役員会ではなく研修会や視察を兼ねて三河や尾張へ行く、また賛助会の企業訪問などをやってはどうか。リアル参加したくなるようなインセンティブが必要ではないかと思う。役員の方々は代表して出席し決議に加わる義務があるため、あらためて主催側、参加側がそれぞれ自覚をもってもらいたい。議決権のある役員の減少により委員長の事務作業が増えないような検討が必要。会議運営、議事録作成、事業報告等 AI を活用して負担軽減に努めたい。役員会出欠についても皆さんがすぐに確認できるようなシステムにするとい

いのでは。

→ペーパーレス化への提案について、経費節減、瀬川さんの労力の軽減につながるため進めていく。その他軽減案について皆さんからの意見をいただきたい。

(役員 K) スラックのようなアプリツールの活用は有効だと思う。アプリを使用できない方もいらっしゃるかもしれないが、時代の流れとしてマストになってきているのではないかと。若手会員を入会させるには必須だと思う。

→全国大会においてスラックは情報共有に優れたツールでしたので、使っていくべきだと思う。

メール協議後の修正点(資料- 19)

総務担当の新人ガイダンスの実施は会員担当に記載されているので削除。

ブリテン担当のところで広告集めは総務委員会と連携に訂正済み。

住宅研究会、建築家プラスWGへの協力と修正。

ワーキンググループで地区連絡会からまちづくりワーキングへ名称変更。

次期委員会所属の希望確認をメール配信する予定。アーキテクトへの同封が間に合わないため、名簿を6月末発行予定のため締め切りを4月15日とする。委員会が再編成になること、所属は形式的なものであり複数の委員会への参加を促す、カレンダー情報などを合わせて明記予定。次回役員会4/19は新旧委員長が集まるが、希望によっては副委員長が変わる可能性があるため、次回までに希望を聞いて締め切った方が良い。

メール協議結果報告(野々川)

資料- 20

4. 協議事項

① 財務状況と改革案について(野々川)

資料- 21

メール協議事項の意見について、地域会費の徴収は会員が減るのではという意見が多い。具体的に100万円不足しているため状況を見て検討を行なってはどうか。事業を縮小することなく支出を見直す。固定費、支部委託費を含め協議する。財務状況を会員にお知らせして会員所属事務所からの運営協力費を増やす。毎年80~90万円を150万円を目標に、法人協力会社を40社から45社に増やせれば改善できるが、できない場合の地域会費徴収の議論も必要。

(役員C) 賛助会費、協賛金への依存を減らす運営をすべき。支部会費、広告収入の入る事業イベントをお願いします。イベントごとに参加費を徴収した方が良いのでは。

(役員G) オンラインサービスを利用するしかない。

(役員H) 会員数減少を見込んでいる割に現状維持になっている。

→固定費を含めやっていかねばならない。

参加しやすい有償での企画などさまざまな意見をいただいている。ペーパーレスなど簡略化、スピード化など、支出について2023年度決算内容を見て支部も含め絞れるところは絞っていかねばならない。今後資料を揃え協議していく。

② 2024年度 東海支部・各地域会通常総会の日程について(森)

資料- 22

愛知地域会5月24日13時50分よりラグナスイートにてオンライン併用。

その後支部役員会、17時より講演会、懇親会。

愛知地域会監査4月15日。それまでに議案書準備。委員会ごとに色分けしてメール配信。4月10日を目処に訂正して送り返してもらう。

③ 愛知ゆとりある住まい推進協議会 委員について(森)

資料- 23

森さんから地域会長の野々川さん、宮坂さんから広報担当の川本さん、黒野さんから事業委員の金山さんに依頼予定。

④ 名市大大学院の講師について(森)

資料- 24

委員長の鈴木先生から名市大のタバタ先生に引き継ぐ。これまで愛知の会員だけが対象だったが、他地域の方も含めたらどうかという意見があった。愛知にとどまらず岐阜や三重、静岡の会員の方を講師にしても良いのでは。ただし、交通費等の問題が発生する。話し合いで決めるのはどうかと思う。

(尾関)

委員会を減らすのは仕方がない。その時に役員は減らさない、多くの方にやっていただくことが大事

だと思う。

7. 監査意見（鈴木）

委員会構成が変更となるが議決権のある役員が減ることについて、議決権のある副委員長を必ず出す責任感のある役員体制としていただきたい。その中で委員会そのものとワーキンググループのようなものを横断的に活発に参加できるようにうまく機能してほしい。委員会構成が決まるところのため各委員会が早急に役員を決めなければならない、責任感のある役員体制緊急で 尽力いただいた方の退会と引き換えに新しい方を入れなければならない。

監査意見（水野）

委員会組織編成を含め変えたから良くなるわけではない、浸透させ情報開示をし、議論し楽しい会にすることが会の基本、尽力を続けて欲しい。全国大会を含め決算状況を把握できた。全国大会の決算がうまく行ったのは思いもよらなかった。有意義な大会だったし事業としても決算としてもうまくいった。みなさんに感謝。

支部の議事録が出てこないため支部報告を口頭やメモで報告することになるのはやむを得ないが、できれば次回支部議事録を次の愛知役員会に掲載していただくと良い。支部の活動を把握しておくことが必要。

愛知も子供や学生相手だと難しいところもあるが、事業として取り組んでいただきたい。

次回は引き継ぎを兼ねるため新旧委員長の方に出席していただきたい。

告知：一周忌を前に建築家会館において野沢さんを偲ぶ会があるのでお立ち寄りください。

次回役員会 2024年4月19日（金）17：00～19：00（JIA 東海支部事務局 会議室・WEB 会議併用）

次回議事録担当委員会：保存研究会

（次回総務委員会：2024年4月15日（月）18:00～）

資料提出先：間瀬高歩 総務委員長

議事録作成 石川英樹
議事録署名人 間瀬高歩
議事録署名人 黒野有一郎